

# 氷川神社社報

第39号

発行

石神井氷川神社  
練馬区石神井台 1-18-24  
宮司 奥野 雅司  
電話 03(3997)6032



宇賀神社絵馬（巖島神社例祭時に頒布）

## 吉祥を呼び込む祓い

宮司 奥野 雅司

新年のお慶びを申し上げます。

令和七年の年頭にあたり祓いについて書いてみようと思えます。

まず祓いには二種類あります。罪を犯した事への贖罪として行なう

「悪（あ）し祓い」と、いつも身を清めておく事で吉事や福を呼び込もうとする「善（よ）し祓い」

です。神事祈祷の時に行なう修祓は後者に含まれます。年に二回、

鎮守の町全体と氏子中を大々的にお祓いする神事が「大祓」です。

当社では七月一日の「夏越しの大祓」と、大晦日に「年越しの大祓」

を行なっております。

祓いのやり方は時に応じて様々です。大祓詞などのお祓いの祝詞

を奏上してから行なう点は共通しています。まず祓い麻（白木の幣

の頂部に紙垂を付けたもの）や紙垂を付けた神で祓うおなじみのやり方。白い和紙を小さく切ったもの

に麻を混ぜた「切り麻」を撒く事で祓うやり方。これらは通常左

方・右方・中央と三回に祓います。茅の輪くぐりも祓いの方法の一つ

です。輪を三回くぐるのは、この作法に則っております。

祓いのために供える「祓津物」  
はらえつもの

や罪穢れを移してお祓いをする

「御贖物」による方法もあります。

例えば短冊形に切った白絹を数回手で裂いたり、麻の縄の撚りを解いてばらばらにする（解き縄）事

によって祓いとします。水を以て自身の身を清める「禊」もこうした祓い

の一種です。禊は海、川、滝、いろいろな所で行ないますが、

風呂に入る事も実は広い意味での禊と言っても良いと思えます。

このたび社殿横の境内の一角に「玉祓い」の祓い場を設けました。

これは土製の中が空洞になっている玉（厄玉）に息を吹き入れて罪穢れを移してそれを割る事によつて祓いとするものです。罪穢れを

移して両手で包んで祈念を籠めた上で祓い場に投げるのです。ポーンと小さく割れる音がして祓われる

でしょう。

新しく迎えた年が、清々しく吉事に満ち溢れた一年になりますよう、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

# 令和七年は乙巳

## 令和七年の干支は巳

令和七年の干支は巳です。蛇（巳）は、爬虫綱有鱗目ヘビ亜目に属する四肢が退化した爬虫類のことを指し、現在二五〇〇種ほどが各地に分布しています。声を出さず、行動は少なく静かに素早く動きますが、生活範囲が広く人里にもよく現れます。



足が無く舌を出しながらとぐろを巻く姿は恐ろしくも不気味でもあり、執念深い性格から狙った獲物を執拗に追いかけることもあります。また、泳ぎが得意で脱皮を繰り返して大きくなります。これらのことから、蛇は水を司る

竜神の化身であると考えられ、同様に水の守り神であり財をもたらすとされる弁財天との関りも信じられてきました。このため弁財天の配下神である宇賀神は蛇の姿で表されます。



井の頭公園 弁天堂宇賀神像

また、脱皮を繰り返すことは生まれ変わりを象徴することから、永遠の繁栄を意味すると考えられてきました。

このような理由から、蛇とお金が結びつき、富をもたらすものとされてきたのです。この二つの関係は各地で見受けられ「蛇が懐に入った夢を見るとお金が入る」（兵庫）「蛇となつて金を守る」（蛇の夢を見たら人に話すな（大金が入る予兆なので秘密にしなさい）」（岩手）等、蛇の夢を見ると縁起が良いとされている地方が多いようです。

## 乙巳はどんな年？

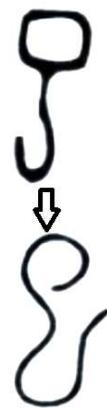
今年の干支である乙巳（きののみ）の組み合わせは、十干の乙は陰の木、干支の巳は陰の火ですから「木生火相生（もくしょうかしょうそう）」という関係になります。昨年の干支甲辰は一方がもう一方を剋す相剋でありましたが、

今年は相生に切り替わるので、十干と干支は良い影響を与え合い生産的で助長する関係となり、成長期を迎えます。乙の成り立ちは「軋」が元の漢字とされており、

草木の幼芽がまだ真っ直ぐに伸びることができず屈曲して行き詰っている状態を示します。未だ発展途上の未熟さはありますが、蔓（つる）や若草の様に踏まれても直ぐに元通りになるしなやかさと若々しさを備えています。

巳は干支の蛇を示していて、長い舌を出している姿が思い浮かびます。古来より神の遣いと考えられており、水とも強く結びついていることから農業とも深い関わりを持ち、神聖視されることも多い存在です。字の成り立ちは諸説あり、甲骨文字で現わされた生まれたばかりの嬰兒（えいじ）の形が原型とする説や蛇が冬眠から

覚めて頭を出している形であるといった説等様々です。後に字の形が変わり、巳の形になったと考えられます。



字の成り立ちは、殆どの説が「今までの状態に一旦区切りを付けて新たに動き出す様」を示す意味合いであることから、様々なものが春を迎えて再スタートを切ることになりそうです。大きいところでは、国内外で新しい指導者による本格的な舵取りが始まり、それに伴って様々な事柄が転換期を迎えるのではないのでしょうか。

乙である木は上に伸びようとすることから向上心や信念・理想を意味し、巳である火は明るさや情熱・行動力といった活動的なものを意味します。したがって、乙巳の組み合わせは木生火の関係をも更に強める陰同士の相生なので、火の燃料となる木が持っている向上心や理想が、火の明るさと情熱・行動力をより強いものに変えていくことを示しています。しかしながら、バランスを崩してしまふと火が強くなり攻撃的な状態に

もなりかねませんので注意が必要です。

昨年は改善・改革といった見直しを行うことが後の利益に繋がる年とお伝えしていましたが、この点において仕事場や家庭内で良い改革を実現できた方は、特に乙巳年の恩恵を大きく受けることができそうです。準備は既にできていますから、あとは言動や行動のバランスに気を付けながら、理想と自信を持って力強く行動することで躍進できるはずですよ。

**日本神話と蛇**

蛇にまつわる神話や昔話は沢山ありますが、中でも当社の御祭神である須佐之男命の八岐大蛇退治は有名です。練馬の昔話でも数多く登場し『白蛇と黒蛇』『栗山の大蛇』『高稲荷の大蛇』『堰ばあさん』などがあります。

神話としてはあまり有名ではありませんが、飛鳥時代の仏教文化の中心であり、世界遺産に登録されている奈良の元興寺には、蛇にまつわる少し変わった伝承があります。『日本国現報善悪霊異記（日本霊異記）』に登場する物の怪「がごぜ」です。

これは尾張国阿育知群のお話で、

農夫が小雨の中畑の水路を作る作業をしていたところ、雨脚が強くなったので木陰で休んでいました。すると目の前に子供の姿をした雷が落ちてきたので、手元の鉄杖で小突いたところ「自分を助けてくれればそなたに子供を授けようそのために桶で船を造って水をためそこに竹の葉を浮かべて欲しい」と言われたのでその通りになりました。そして、後に生まれた子供は「頭に蛇纏ふこと二遍、首と尾を後（しり）に垂れ」た姿をしていました。成長した少年は力持ちで有名になり、その噂は朝廷まで聞こえてくるほどでした。力王と呼ばれる力持ちとの対決は八尺（二・四m）四方の石を小石の様にあちらこちらに投げ合うというコミカルな描写となっています。



『卜翁新画』  
(東京藝術大学附属図書館所蔵)

やがて少年が元興寺の童子となると“元興寺の小童”と呼ばれ、有

名になります。そして、ある時から夜な夜な鬼が寺に現れて悪さをしようになると鬼退治を引き受けて、寺の僧侶と協力して無事鬼を追い払うことに成功します。この時に鬼からむしり取った髪の毛が現在も元興寺に保管されていると伝えられています。



鳥山石燕  
『画図百鬼夜行』 (1766)

この童子は「妖怪がごぜ」として百鬼夜行などにも登場し、実はそちらの方が有名です。妖怪が主人公の某アニメにも作者の家に現れるお話がありました。

童子を与えたのは雷ですが、「神鳴り」とも書き、必ず雨を伴うものです。水と雷は農耕社会に深く根付き、昔から信仰されてきました。同様に水と結びつきが深く、見た目の不気味さから畏怖の対象となることがあった蛇も、信仰の対象となることは自然なことだったのでしよう。日本は農耕社

**令和七年は元氣一杯に**

昨年より改善・改革を行って準備を重ねてきた人は勿論のこと、心機一転して新しいことに挑戦しようと思っっている人も、今年は向上心を持って目標に向かい積極的に行動するとよいでしょう。目標は高く、理想に向かって行動力をいかななく発揮して下さい。

しかしながら、猪突猛進では目標を見失ってしまいます。バランスを考えて、攻撃的な行動にならないよう気を付けることが肝要です。そして、疲れてしまった時は少し力を抜いて休息を挟み、暫し物事の流れに身を任せてみるのも良いのではないのでしょうか。

『この道はどこへ続いているのか。それは伸びてゆく植物の蔓に聞いたほうが良い。蔓は答えるだろう。「私はなんにもしりません。しかし、伸びてゆく方向に陽があるようですよ」』

(太宰治「パンドラの匣」)

本年が皆様に取りまして良い年となりますようお祈り申し上げます。

# 氷川神社行事予定

## (春・夏)

### 祈年祭

三月初旬

【行事】一年の豊作を祈願する神事。秋の新嘗祭に対応する祭典。神田の種籾をお供えし、諸作物の豊作とともに虫害や天候による災害がないよう祈ります。

### 井のいち

五月十八日(日) (予定)

【場所】氷川神社境内

【行事】第十四回となる神社境内一円で行なう複合イベント。クラフト作家の作品販売。神楽殿ではライブ演奏。飲食店の出店他、各種ワークショップあり。雨天決行。

### 夏越の大祓

七月一日(火) 十六時齋行

【場所】氷川神社境内

【行事】夏越しの大祓式は、夏を無病息災で過ごせるように行なう祓い。形代にお名前を記して祓い料を添え、当日までに神社に納めれば誰でも参加できます。

詳細は後日神社社頭または社報・HP等でお知らせします。

### ちやが馬七夕

【日程】八月三日(日) 夕刻

【場所】氷川神社境内

月遅れの七夕を祝う催し。夕刻から夜にかけて行われます。飲食店を中心に出店があります。神楽殿でライブ、パフォーマンスあり。七夕祭は夕刻より齋行します。また、お願い事を記入して頂く祈願用短冊の頒布もあります。お申し込みの方にはもれなく特製手ぬぐいを差し上げています。

### 一心泣き相撲

【日程】

八月十七日(日) 午前中

【場所】氷川神社境内

泣き相撲とは、赤ちゃんの健康と成長を祈願する日本の伝統行事です。赤子の泣き声が邪を祓った故事を由来とし、化粧廻しと紅白綱を締めた赤ちゃんを力士に抱えられて土俵へあがります。赤ちゃんの泣き声やしぐさに合わせて行司が勝負を預かり、「緑児泣きたるは万歳楽」と、すこやかな成長を祈願します。

令和7年度 厄年早見表

	前厄	本厄	後厄
男性の厄年	24歳・午 <b>平成14年生</b>	25歳・巳 <b>平成13年生</b>	26歳・辰 <b>平成12年生</b>
	41歳・丑 <b>昭和60年生</b>	42歳・子 <b>昭和59年生</b>	43歳・亥 <b>昭和58年生</b>
	60歳・午 <b>昭和41年生</b> ※男女共通	61歳・巳 <b>昭和40年生</b> ※男女共通	62歳・辰 <b>昭和39年生</b> ※男女共通
女性の厄年	18歳・子 <b>平成20年生</b>	19歳・亥 <b>平成19年生</b>	20歳・戌 <b>平成18年生</b>
	32歳・戌 <b>平成6年生</b>	33歳・酉 <b>平成5年生</b>	34歳・申 <b>平成4年生</b>
	36歳・午 <b>平成2年生</b>	37歳・巳 <b>昭和64年生</b> <b>平成元年</b>	38歳・辰 <b>昭和63年生</b>

### 蘇民将来あります

当社では暮れからお正月にかけて蘇民将来をお頒ちしています。数量限定のため無くなり次第終了です。取り置きはしておりませんので、ご希望の方は早目にお受け下さい。大きさは二種類あり、小が二千円・大が二千五百円です。



この蘇民将来は、当社の御祭神である須佐之男命の御神徳をたたえて調製した注連縄です。

須佐之男命が詔り給く「後世疫病あらば、蘇民将来の子孫となえよ。しからばその家の人は難を免れなむ」。この注連縄はこのご神託に基き、これを家の門口か神棚にかけておけば疫病災難から護られるという尊い注連縄です。